

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：鞍田 三貴

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	N S T（栄養サポートチーム）、チーム医療
学位	最終学歴
家政学士	神戸女子大学 家政学部 管理栄養士養成課程 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 文献検索の実践	2010年	教科書以外の文献を引用し熟読することで、興味を深めることが狙いである
2. 卒業論文発表予行および国家試験対策のための合宿	2009年12月から毎年	丹嶺学苑研修センターにおいて、卒業論文発表の予行を行い、本番に備える。また国家試験勉強の追い込みも同時に行う。のこり僅かとなった研究室メンバー（学部生、院生）との友好を深める。
3. 栄養サポートステーションを開設し患者の栄養支援を行う	2011年1月から現在	大学近隣の開業医および大学病院より栄養相談の必要な方を紹介いただき、研究室の院生および学生が患者支援にあたる。授業では経験できない生きた実践教育が行える
2 作成した教科書、教材		
1. 高齢者高血圧の治療と管理	2014年10月20日	高齢者高血圧の減塩指導におけるコツと注意点について高血圧治療ガイドラインの改正に伴うハンドブックの中の一部として掲載
2. 栄養科学イラストレイテッド 演習版 臨床栄養学ノート	2012年5月1日	テキスト基礎編・疾患別編を併用し、国家試験問題に準拠した演習問題を反復学習する。 担当箇所、チーム医療、消火器疾患
3. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編	2012年2月15日	厚生労働省による管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。基礎編では、管理栄養士の臨床現場での活動の流れに沿って項目を構成している。 担当箇所、第2章チーム医療
4. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	2012年2月15日	厚生労働省による、管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。各疾患ごとの栄養管理に沿って構成。 担当箇所、第2章 消火器疾患。
5. 臨床栄養学概論	2011年10月20日	2、3年制の栄養士養成施設の学生を対象とした教科書
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 栄養サポートステーション「カラダに良いことづくし〜平成最後のクリスマス〜」料理教室	2018年12月08日	栄養科学研究所栄養サポートステーションに来院される外来患者5名に対して4年生、3年生、大学院生などのスタッフと共に米ぬか、発酵食品などを用いた料理教室と講義を実施した。
2. 第12回石川県臨床工学技士会呼吸療法セミナー	2018年10月20日	石川県呼吸療法セミナーにおいて、「おなかの調子を整えると呼吸療法にも効果的？」の講演を行った
3. 栄養サポートステーション「腸活」料理教室	2018年03月10日	栄養科学研究所栄養サポートステーションに来院される外来糖尿病患者5名に対して3年生、大学院生などのスタッフと共に腸内細菌の講義と料理教室を実施した。
4. 第48回日本臨床栄養協会近畿地方会	2018年02月10日	これでよいのか栄養管理「改めて考えよう腸栄養」で症例検討&グループワーク「消化管トラブル症例」を行った。
5. 西宮市医師会市民フォーラム	2017年9月30日	見直しませんか生活習慣「食を見直してあなたの腎臓を守りましょう」 一般市民を対象に講演をおこなった
6. 第10回加賀地区栄養管理セミナー	2017年11月27日	栄養管理に関する情報交流として加賀医療センターで開催のセミナーにおいて、栄養管理の重要性について講演した
7. 石川県臨床工学技士会呼吸療法セミナー	2017年11月26日	石川県呼吸療法セミナーにおいて、「栄養ってとても大事」の講演を行った
8. 薬と健康フェア 一般社団法人西宮薬剤師会	2017年10月29日	一般市民を対象とした健康講演会において、「痩せるために糖質制限は必要か」について講演を行った
9. 高槻日吉台公民館 市民講座	2016年2月19日	高齢者の栄養教育講演
10. 看護部中間管理者研修	2016年10月29日	一般社団法人新仁会グループの看護師長を中心とした研修会において老年看護の特性を踏まえた生活支援について講義
11. 石川県臨床工学技士会呼吸療法セミナー「見直しませんか？呼吸療法中の食事」	2016年10月16日	臨床工学技士会主催のセミナーにおいて、食事療法の重要性についてを看護師、臨床工学士、理学療法士などに講義した
12. 兵庫県理学療法士会但馬ブロック講演会	2016年1月30日	理学療法士を対象に、栄養管理の重要性について主に栄養とサルコペニアについて講演した

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
13. 大阪薬科大学市民講座	2015年5月30日	大阪薬科大学主催の市民公開講座において、一般の高齢者を対象に「賢い食事で健康寿命をのばそう」について講演した。今年度からの新制度「機能的表示食品」についても述べた。
14. 附属高等学校3年 科学演習Ⅲ	2015年1月26日	嚥下のメカニズムについて講義および演習を行った
15. 2014年度日本臨床栄養学会 認定臨床栄養医研修会	2014年7月27日	日本臨床栄養学会が認定する臨床栄養医師の研修会における講師 演題「診療に役立つ臨床栄養の基礎的知識」
16. 第1回阪神地区糖尿病重症化予防セミナー	2014年7月19日	武庫川女子大学栄養科学研究所栄養クリニック部門栄養サポートステーションが地域医療連携を提案し、糖尿病を地域で支援するためのセミナーを開催。栄養サポートステーションの活動を紹介した。
17. 臨床栄養 スタートアップ講座 臨床栄養のABC	2014年11月30日	平成26年度厚生労働科学研究（がん政策研究）日本対がん対策推進総合研究推進事業 日本臨床栄養学会共催 若手医師、管理栄養士、薬剤師を対象に臨床栄養（チーム医療）についての基礎についての講義
18. 第8回石川県呼吸セミナー	2014年10月19日	石川県臨床工学技師会の主催により呼吸療法セミナーにおいて「呼吸療法中の栄養管理」の講師
19. 模擬授業	2013年12月16日	兵庫県立三木高等学校1年2年の女子対象に、医療における管理栄養士の役割について模擬授業をおこなった
20. 兵庫県立看護協会 栄養サポートチーム担当者研修会での講師	2013年12月12日	栄養サポートチーム専門看護師認定のためのセミナーにおける講師 栄養療法継続のための社会資源について
21. チーム医療CE研究会西日本主催第60回セミナー	2012年7月29日	呼吸療法に必要な栄養の基礎とケースステディ～人工呼吸管理の専門看護師を対象に、栄養管理の重要性とポイントを述べ演習を行った
22. 第7回地域医療連携栄養治療ネットワーク（味の素製菓）	2012年7月1日	管理栄養士養成大学が地域医療に何ができるか、武庫川栄養サポートステーションについて紹介した
23. 日本臨床栄養学会認定臨床栄養医研修会 講師	2012年7月1日	日本臨床栄養学会認定の臨床栄養医単位認定の研修会において、「透析患者の栄養状態と食事摂取状況」について講義した
24. 兵庫県看護協会NST担当者研修会	2012年12月3日	栄養サポートチーム専任の資格を得るための講習会において栄養療法についての講義
25. 第40回TAF 訪問看護リハビリテーション	2012年11月10日	訪問看護リハビリテーションで活躍する理学療法士を対象に、「コメディカルが知っておきたい栄養管理」栄養管理のポイントを述べた（神戸市立婦人会館）
26. 武庫川女子大学附属図書館教養講座	2012年10月20日	2012年度 文化祭における講演会にて「健やかな高齢期を過ごすための栄養ケア」について地域の高齢者を対象に、何をどれだけ食べればよいか、健やかな高齢期を過ごすためのポイントをわかりやすく解説した。
27. 模擬授業（大阪府立佐野高校）	2012年10月15日	食べるということはどういうことか。栄養とは何かの模擬授業
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 認定臨床栄養学術師	2004年04月	臨床栄養学会認定
2. 栄養サポートチーム(NST) 専門栄養士	2004年03月	
3. 日本サプリメントアドバイザー	2004年01月	
4. 管理栄養士	1984年7月21日～現在	臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅲ、臨床栄養学Ⅳ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第40回秋桜の会	2019年6月6日	「味覚の話」 阪神地区の糖尿病療養指導に携わっている医療従事者に対して講演した。
2. いま話題の「あぶら」の話	2019年4月20日	西宮市内の循環器専門病院において、地域住民を対象とした健康教育講演
3. 透析患者の食事管理	2019年11月30日	宮本クリニック患者会にて講演を行った。 鞍田三貴
4. 武庫川女子大学栄養科学研究所 栄養支援科学部門 栄養サポートステーション活動からみた諸問題～薬のいる人いない人～	2019年03月09日	第7回武庫川女子大学栄養科学研究所 公開シンポジウムにて講演を行った。
5. 鳴教会における総会での講演	2019年02月23日	「油は身体の美容液？賢い食べ方で健康寿命を延ばしましょう」 本学OGに対し健やかに過ごす栄養管理とした講演を行った

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
6. 第39回秋桜の会	2019年02月07日	「キャリパー法で体脂肪測定」 阪神地区の糖尿病療養指導に携わっている看護師や理学療法士に対して講演した。
7. 透析患者の栄養管理	2018年11月17日	宮本クリニック患者会にて講演を行った。 鞍田三貴
8. もぐもぐ噛んで健康!	2018年07月21日	西宮渡辺心臓・脳血管センター健康塾にて講演を行った。 鞍田三貴
9. 第37会秋桜の会	2018年07月05日	「たかが栄養・されど栄養」パート2 油・コンビニ 阪神地区の糖尿病療養指導に携わっている看護師や理学療法士に対して講演した。
10. 第36会秋桜の会	2018年04月05日	「たかが栄養・されど栄養」パート1 阪神地区の糖尿病療養指導に携わっている看護師の方々に講演した。
11. 第16回西宮鳴教会総会・研修会	2018年02月03日	鳴教会参加者に対し、筋活・菌活健やかに生きるための食生活についての講演を行った。
12. 私の栄養管理術～実践編～	2016年06月01日	不安定狭心症 慢性腎不全の症例を提示し栄養管理の実践を紹介した New Diet Therapy Vol. 32 No1:54-55
13. 第18回兵庫生活習慣病懇話会 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	2014年11月15日	初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していたことを報告
14. 武庫川女子大学 栄養科学研究所第1回公開シンポジウム	2013年2月9日	栄養と健康のサイエンス 研究員によるトピックス紹介～栄養サポートステーションの取り組み～
15. 第3回大阪栄養介護セミナー	2013年1月26日	大阪栄養介護セミナー 地域における栄養管理～栄養サポートステーションの紹介～
16. 宮本クリニック透析勉強会	2012年12月15日	透析患者さんの栄養管理
17. 大阪糖尿病協会顧問医師会例会	2009年09月	たかが栄養、されど栄養
18. 日本赤十字社和歌山医療センター学術講演会	2008年03月	効果的なNST活動の進め方
19. 神戸市立西市民医療センターNSTセミナー	2008年03月	食べられない人をどうするか
20. 社団法人日本看護協会神戸研修センター	2007年11月	消化器症状を持つ患者への食事の工夫
21. 第16回香川NSTメタボリッククラブ	2007年10月	NSTロールプレイング チーム医療
22. HIV感染症医師実地研修 (1ヵ月コース)	2007年10月	臨床栄養学
23. 第7回褥瘡研修会	2007年02月	褥瘡と栄養・栄養管理は意味があるのか
24. 大阪府茨木保健所管内 集団給食研究会	2007年02月	NSTについて
25. 舞鶴共済病院 記念講演	2006年11月	栄養療法およびNSTの重要性・意義・効果などについて
26. 国立京都医療センター定期公演会	2006年07月	NSTが必要となった理由
27. 第1回栄養治療を考える会	2006年06月	コメディカルが作った栄養管理システム
28. 平成17年度 新介護予防セミナー 全国老人福祉協議会	2006年02月	ワークショップ 介護予防の栄養改善～具体的な進め方～
29. 肝疾患患者指導研究会	2005年11月	パネルディスカッション 「NST活動における肝臓病教室の現状と成果」
4 その他		
1. 日本静脈経腸栄養学会 評議員	2011年	
2. 日本静脈経腸栄養学会 編集委員	2005年	
3. 日本病態栄養学会 評議員	2003年4月	
4. 日本臨床栄養協会 学術委員 評議員	2000年4月	
5. 日本臨床栄養学会 評議員	1999年4月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 高齢者高血圧の治療と管理	共	2014年10月20日	先端医学社	日本高血圧学会の治療ガイドライン2014年改定に当たり作成された。高齢高血圧の減塩指導の要点について記した。
2. ヘルスケア・レストラン 患者とともに歩む栄養指導 最終回	単	2012年1月	日本医療企画	人の健康と幸福に寄与する専門職をめざそう
3. 臨床栄養学 疾患別編	共	2012年02月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編
4. 臨床栄養学 基礎編	共	2012年02月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 高侵襲手術予定頭頸部がん患者の	共	2020年06月1	日本臨床栄養協会誌New	鞍田三貴、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
術後合併症を予測する術前栄養因子の検討(査読付)		0日	Diet Therapy 36 (1) p3-12 2020	亜紀子、北野睦三。侵襲施行頭頸部がん患者の術後合併症を予測する因子を見出すために種々の術前栄養指標と術後合併症発生のと関連について検討した。結果、管理栄養士により主観的包括的評価による術前栄養状態の評価が最も術後合併症を予測した。
2. Decreased arterial distensibility and postmeal hyperinsulinemia in young Japanese women with family history of diabetes.	共	2020年05月	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 May doi:10.1136/bmjdr-2020-001244	Mika Takeuchi, Bin Wu, Mari Honda, Ayaka Tsuboi, Kaori Kitaoka, Satomi Minato, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo FHD was associated with decreased arterial distensibility and postprandial hyperinsulinemia despite nearly identical postprandial glycemia and postprandial FFA suppression, suggesting that impaired vascular insulin sensitivity may precede glucose and lipid dysmetabolism in normal weight Japanese women aged 22 years.
3. 心不全患者における主観的包括的評価 (SGA) の短期予後予測の妥当性 (査読付)	共	2020年04月	心臓リハビリテーション学会誌26(1)136-146 Journal of the Japanese Association of Cardiac Rehabilitation	鞍田三貴、武内海歌、亀井こずえ、岡村春菜、笹部麻美、木戸里佳、高木洋子、民田浩一 心不全患者253例を対象にSGA、CONUT、GNRI判定と入院中の生存率の関連を検討し、入院中の死亡予測因子を求めた。 SGA栄養不良群の入院中生存率は低く、GNRI、CONUTは生存率に差を認めなかった。死亡予測因子として、SGA判定が抽出された。
4. Higher circulating orosomucoid and lower early-phase insulin secretion in midlife Japanese with slower glucose disposal during oral glucose tolerance tests (査読付)	共	2020年01月	Diabetol Int (2020) 11: 27-31	Ayaka Tsuboi, Kaori Kitaoka, Megumu Yano, Mika Takeuchi, Satomi Minato, Miki Kurata, Gen Yoshino, Bin Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Lower early-phase insulin secretion and low-grade inflammation were associated with slower glucose disposal during an oral glucose tolerance test in midlife Japanese. The rate of glucose disposal was not related to adiposity and insulin resistance.
5. Association of Age and Anemia With Adiponectin Serum (査読付)	共	2019年4月1日	Journal of Clinical Medical Research 11(5):367-374	Mari Hondaa, Ayaka Tsuboi, Satomi Minato, Kaori Kitaoka, Mika Takeuchi, Megumu Yano, Miki Kurata, Bin Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo, Adiponectin serum level are affected by sex, ethnicities, adiposity, age and several pathological conditions such as anemia. In normal-weight Japanese women, the prevalence of hyperadiponectinemia and serum adiponectin were increased and associated with anemia at 65 years of age and older.
6. 高侵襲手術予定頭頸部がん患者の術前栄養状態 (査読付)	共	2019年12月	日本臨床栄養学会雑誌41(2):164-171 (2019)	鞍田三貴、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村亜紀子、北野睦三 高侵襲手術予定頭頸部がん患者40症例を対象に、術前血液検査値、入院前の食事摂取量、術前SGA、EAT-10による誤嚥リスク、術前サルコペニア診断、術後創部合併症発生率を検討した。術前において体重減少、低BMI、誤嚥ハイリスク割合が多い。頭頸部がん術前の栄養療法を確立し、早期からの栄養管理が必要である。
7. Higher circulating adiponectin and lower orosomucoid were associated with postload glucose ≤ 70 mg/dL, a possible inverse marker for dysglycemia, in young Japanese women (査読付)	共	2019年02月	BMJ Open Diab Res Car 2019;7:e000596. doi:10.1136/bmjdr-2018-000596	Ayaka Tsuboi, Satomi Minato, Megumu Yano, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, Miki Kurata, Gen Yoshino, Bin Wu, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Higher adiponectin and lower orosomucoid were associated with 70 or lower mg/dL of postload glucose, a possible inverse marker for dysglycemia, in young women independently of DXA-derived fat mass and distribution, insulin secretion and IR.
8. Higher Fasting and Postprandial Free Fatty Acid Levels Are Associated With Higher Muscle Insulin Resistance and Lower Insulin Secretion in Young Non-Obese Women. (査読付)	共	2018年09月	Journal of Clinical Medical Research 2018; 10 (11) 822-829	Mika Takeuchi, Satomi Minato, Kaori Kitaoka, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Young women whose PBG returned to FPG more slowly had higher muscle insulin resistance and lower MIR associated with higher fasting and postprandial FFA levels compared with young women whose PBG returned to baseline more quickly.
9. Associations of postprandial lipemia with trunk/leg fat ratio in young normal weight women independently of fat mass and insulin resistance. (査読付)	共	2018年02月	Asia Pac J Clin Nutr. 2018;27(2):293-299	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo 腹部脂肪マーカーである体幹下肢脂肪比は、正常体重でインスリン感受性の若年女性でさえ、食後の高脂血症などが危険因子であった。
10. The Cluster of Abnormalities Related to Metabolic Syndrome Is Associated With Reduced Glomerular Filtration Rate and Rai	共	2017年05月25日	J Clin Med Res. 2017 Sep;9(9):759-764. doi: 10.14740/jocmr3097w. Epub 2017 Jul 27.	Kurata Miki, Takenouchi Akiko, Tsuboi Ayaka, Minato Satomi, Takeuchi Mika, Kitaoka Kaori, Fukuo Keisuke, Kazumi Tsutomu. In Japanese patients with type 2 diabetes, the

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
sed Albuminuria in Patients With Type 2 Diabetes Mellitus. (査読付)				cluster of abnormalities related to MS was associated not only with higher prevalence of albuminuria, reduced kidney function and hence the increase in CKD but also with corresponding changes in urinary ACR and eGFR.
11. Post-Prandial Plasma Glucose Less than or Equal to 70 mg/dl Is Not Uncommon in Young Japanese Women(査読付).	共	2017年05月10日	J Clin Med Res, 2017:9(8):680-686	Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Kaori Kitaoka, Satomi Minato, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Post-prandial PG ? 70 mg/dL is not uncommon in young normal weight Japanese women and may not be a pathological condition. The underlying mechanisms for this finding need further exploration.
12. Association of Whole Blood Viscosity With Metabolic Syndrome in Type 2 Diabetic Patients: Independent Association With Post-Breakfast Triglyceridemia. (査読付)	共	2017年04月09日	J Clin Med Res. 2017 Apr;9(4):332-338. doi : 10.14740/jocmr2885w . Epub 2017 Feb 21.	Minato Satomi, Takenouchi Akiko, Uchida Junko, Tsuboi Ayaka, Kurata Miki, Fukuo Keisuke, Kazumi Tsutomu. Both the presence of MS and the number of MS components were associated with higher WBV in patients with type 2 diabetes.
13. Increased Adipose and Muscle Insulin Sensitivity Without Changes in Serum Adiponectin in Young Female Collegiate Athletes. (査読付)	共	2017年03月20日	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 15, Number 5, 2017 246-251	Kitaoka K, Takeuchi M, Tsuboi A, Minato S, Kurata M, Tanaka S, Kazumi T, Fukuo K. Endurance training was associated with increased insulin sensitivity in adipose tissue as well as skeletal muscle without changes in circulating adiponectin even in young, normal-weight Japanese women.
14. Postmeal triglyceridemia and variability of HbA1c and postmeal glycemia were predictors of annual decline in estimated glomerular filtration rate in type 2 diabetic patients with different stages of nephropathy. (査読付)	共	2017年01月	Journal of Diabetes & Metabolic Disorders (2017) 16:1	Ayaka Tsuboi, Akiko Takenouchi, Miki Kurata, Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi, Consistency of glycemic control and management of postprandial glycemia and lipidemia are important to preserve kidney function in type 2 diabetic patients.
15. Carotid intima-media thickness and visit-to-visit HbA1c variability predict progression of chronic kidney disease in type 2 diabetic patients with preserved kidney function. (査読付)	共	2016年12月	Journal of Diabetes Research Vol.2016, Article ID 3295747, 6pages	Akiko Takenouchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Keisuke Fukuo and Tsutomu Kazumi Subclinical atherosclerosis and long-term glycemic variability predict deterioration of chronic kidney disease (as defined by incident or worsening CKD) in type 2 diabetic patients with preserved kidney function.
16. Association of Metabolic Syndrome with Serum Adipokines in Community-Living Elderly Japanese Women Independent Association with Plasminogen Activator-Inhibitor-1(査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 13, Number 9, 2015 415-421	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi Associations between metabolic syndrome (MetS) with serum adipokines and basal lipoprotein lipase mass (serum LPL) have not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index than European populations. Although proinflammatory, prothrombotic, and anti-inflammatory states were associated with MetS, higher PAI-1 was associated with MetS independent of fat mass index and insulin resistance in elderly Japanese women, in whom obesity is rare.
17. The impact of nutritional state on the duration of sputum positivity of Mycobacterium tuberculosis (査読付)	共	2015年11月	INT J TUBERC LUNG DIS 2015 Volume 19 Number 11, 1369-1375 (7)	Hatsuda Kazuyoshi, Takeuchi Mika, Ogata Kanako, Sasaki Yumiko, Kagawa Tomoko, Nakatsuji Haruka, Ibaraki Madoka, Sakaguchi Mitsuhiro, Kurata Miki, Hayashi Seiji The outcome of anti-tuberculosis treatment varies according to patient factors. To retrospectively identify risks related to the extension of time to negative sputum culture (Tn) and to determine their clinical significance. The nutritional state of a TB patient can be used to predict Tn.
18. Association of Metabolic Syndrome with Chronic Kidney Disease in Elderly Japanese Women: Comparison by Estimation of Glomerular Filtration Rate from Creatinine, Cystatin C, and Both(査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 14, Number 1, 2015 40-45	Miki Kurata, Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Keisuke Fukuo, and Tsutomu Kazumi, Associations between metabolic syndrome (MS) and chronic kidney disease (CKD) has not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index (BMI) than European populations. Prevalence of CKD varied substantially depending on the used equation. In nonobese, elderly Japanese women, both the presence of MS and the number of MS components were associated with high

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19. Direct association of visit-to-visit HbA1c variation with annual decline in estimated glomerular filtration rate in patients with type 2 diabetes(査読付)	共	2015年10月	Disorders (2015) 14:69 DOI 10.1186/s40200-015-0201-y	her prevalence of CKD and elevated blood pressure may play an important role in these associations. These findings should be confirmed in studies employing more participants with MS diagnosed using standard criteria (waist circumference instead of BMI). Akiko Takenouchi1, Ayaka Tsuboi, Mayu Terazawa-Watanabe, Miki Kurata, Keisuke Fukuo and Tsutomu Kazumi This study examined associations of visit-to-visit variability of glycemic control with annual decline in estimated glomerular filtration rate (eGFR) in patients with type 2 diabetes attending an outpatient clinic. Intraperitoneal mean and coefficient of variation (CV) of 8-12 measurements of HbA1c and those of 4-6 measurements of fasting and post-breakfast plasma glucose (FPG and PPG, respectively) during the first 12 months after enrollment were calculated in a cohort of 168 patients with type 2 diabetes. Annual changes in eGFR were computed using 52 (median) creatinine measurements obtained over a median follow-up of 6.0 years. Multivariate linear regressions assessed the independent correlates of changes in eGFR. Conclusions: Consistency of glycemic control is important to preserve kidney function in type 2 diabetic patients, in particular, in those with nephropathy.
20. Low hemoglobin levels contribute to low grip strength independent of low-grade inflammation in Japanese elderly women (査読付)	共	2015年03月	Asia Pac J Clin Nutr 2015;24(3):444-451	Eriko Yamada, Mika Takeuchi, Miki Kurata, Ayaka Tsuboi, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Muscle strength declines with age. However, factors that contribute to such declines are not well documented and have not been extensively studied in elderly populations of Asian origin. Correlations of grip strength with a broad range of factors associated with declines in muscle strength were examined in 202 community-living elderly Japanese women.
21. 急性期脳血管疾患患者の嚥下機能改善に影響を及ぼす因子の検討(査読付)	共	2014年9月	日摂食嚥下リハ会誌18(2):141-149(2014)	山田恵理子 西村智子 山中英治 鞍田三貴 患者の意欲が嚥下機能改善に関係するかを検討した。脳血管疾患39例の嚥下機能改善群・不変低下群に分類した。意欲評価は、アバシースケールを用いた。2群間の入院時の年齢、主疾患、脳卒中既往の有無、ADL、四肢麻痺の有無、JCS、血液検査値に差はなく、消化管使用までの日数、ST介入までの日数、誤嚥性肺炎の有無、うつスコアにも差は見られなかった。 ロジスティック回帰分析による嚥下機能改善に関係する因子は、入院時BMIとST介入時の意欲であった。
22. 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の予後予測栄養因子の検討	共	2014年3月31日	武庫川女子大紀要(自然科学)第61巻21-26(2013)	鞍田三貴、西真理絵、藤村真理子、里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の生存に影響する術前背景および臨床指標を見出し、予後予測術前栄養因子を抽出した。5年間のPEG施行患者で生存調査が可能であった74症例を対象とした。Alb3.5以上、Hgb12以上、消化管栄養の患者が1年時点の生存期間が長期であった。1年生存に最も影響を与える因子は、気切切開の有無(ハザード比0.24、95%信頼区間0.07~0.78)とアルブミン(HR0.25、95%CL0.11~0.57)であった。
23. The impact of nutrition and glucose intolerance on tuberculosis development in Japan (査読付)	共	2014年1月	INT J TUBERC LUNG DIS 18(1):84-88, 2014	Seiji Hayashi, Mika Takeuchi, Kazuyoshi Hatsuda, Kanako Ogata, Miki Kurata, Tamaki Nakayama, Yukio Ohishi, and Hideji Nakamura TB is decreasing favorably; however, Japan is still categorized as an intermediate-burden country. In this regard, we aimed to identify the metabolic and nutritional state risk factors for the development of TB. In Japan, the development of TB is still associated with iGT and malnutrition.
24. Association of Pulse Pressure with Serum TNF-α and Neutrophil Count in the Elderly (査読付)	共	2014年	Journal of Diabetes Research Vol. 2014, Article ID 972431, 7pages	Eriko Yamada, Mika Takeuchi, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo 2型糖尿病と炎症マーカーの危険因子として知られる脈拍の断面関係を150人の地域在住高齢女性のうち高血圧を有する人79人(52.7%)で調査した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
25. 肺結核患者の入院時栄養評価～第1報～(査読付)	共	2013年5月	静脈経腸栄養学会誌Vol.28 No3:131-136	地域在住高齢女性の好中球、インスリン抵抗性、高値TNF- α と高い脈拍は独立した関係であることが実証され、インスリン抵抗性と慢性的軽度炎症は、高血圧を有する高齢女性の2型糖尿病と高い脈拍を部分的に関連づけていると示唆される。 武内海歌 鞍田三貴 福尾恵介 中山環 大石幸男 初田和由 林清二 結核患者の栄養状態を評価した。結核菌検査を施行した382名(男268名、女性114名、平均年齢59.6 \pm 19.5歳)を対象とし、入院時BMI、血清アルブミン(Alb)、CRP、空腹時血糖(FBS)、TLC、PNIをretrospectiveに検討した。結核菌陰転化入院時PNI、CRP、GLUが影響していた。血清Alb値は50歳未満の結核患者において陰転化を規定する因子として重要なマーカーであることが明らかとなった。
26. 初回治療肺結核患者の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子の検討(査読付)	共	2013年10月	日本結核病学会誌Vol.88 No10:697-702	武内海歌 鞍田三貴 林清二 肺結核(TB)の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子を検討した。単変量解析では、男性、入院時BMI18.5kg/m ² 未満、Alb3.0g/dL以下、CRP0.3mg/dL以上、HbA1c(NGSP)6.5%以上、RDA%エネルギー87%未満、喀痰塗抹検査が陰性化遅延因子として抽出された。重回帰分析では入院時HbA1c(NGSP)、CRP、BMIが抽出された。
27. 臨床研修医における研修開始後の食行動変化と体脂肪量の変化(査読付)	共	2011年12月	肥満研究Vol.17 No3 210-215	鞍田三貴, 三浦あゆみ, 松田絵里, 今西健二, 辻仲利政 内臓脂肪に着目した保健指導は、壮年期が対象であり青年期に対しては、将来的な疾病予防対策は行われていない。ライフスタイルの変化や多大なストレス負荷が予想される研修医18名(25.4 \pm 2.6歳)を対象に、食行動と体組成の変化を明らかにした。
28. Effect of Preoperative Immunonutrition on Body Composition in Patients Undergoing Abdominal Cancer Surgery	共	2007年	Surgery Today 37:118-121	Toshimasa Tsujinaka, Motohiro Hirao, Kazumasa Fujitani, Hideyuki Mishima, Masakazu Ikenaga, Toshiro Sawamura Preoperative administration of immunonutrients (ImpactR) may induce body structural changes which may modulate stress responses to improve surgical outcomes in patients with abdominal cancer. Feasibility of preoperative 5 days road of Impact and potential body structural changes was examined. Randomized study is planned on gastric cancer patients undergoing total-gastrectomy, to confirm clinical benefits of preoperative Impact intake.
29. Patient-controlled Dietary Schedule Improves Clinical Outcome after Gastrectomy for Gastric Cancer	共	2005年	World J. Surg. 29. 853-857	Motohiro Hirao, Toshimasa Tsujinaka, Atsushi Take no, Kazumasa Fujitani, Miki Kurata Although early oral feeding after abdominal surgery has been recommended, the optimal dietary schedule has not been established. Enhanced dietary schedule was designed basing on a patient-controlled manner and clinical benefits were evaluated, comparing to conventional dietary schedule. Early dietary schedule was feasible after distal gastrectomy and it improved the clinical outcomes.
30. 臨床栄養管理業務における栄養評価に関する研究	共	2003年	平成14年度財団法人政策医療振興財団助成金研究班報告書	桑原節子、片桐義範、高橋美恵子、平野和保、鞍田三貴、石長孝二郎、橋本龍幸、橋本有史、安武健一郎、吉村弘美、池本美智子、船越美帆
31. 入院患者に占める低栄養患者の役割(査読付)	共	2002年10月	日本静脈経腸栄養学会誌17(4)77-82	鞍田三貴, 今西健二, 辻仲利政 2000年新規入院患者より無作為抽出した219人について栄養状態をprognostic nutritional index (PNI)において40以下の低栄養患者を約27%に、血清アルブミン値3.5g/dl未満の患者を約33%に認めた。低栄養患者(PNI40以下、アルブミン値3.5g/dl未満)の在院日数は有為に延長していた。入院患者に占める低栄養患者の割合は、1970年代に報告された数値と大きな差を認めなかった。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. ポスター2-5 食事療法・機能性食品・運動療法(2)座長	共	2019年7月12日	第51回日本動脈硬化学会総会・学術集会	鞍田三貴、藤岡由夫
2. 演題「これからの健康サポート～薬を超えて～」小児における食事と栄養」座長	単	2019年6月2日	2019年度NR・サプリメントアドバイザーレベルアップセミナー	
3. シンポジウム6 終末期(End of Life Care)における栄養 座長	共	2019年10月27日	第41回日本臨床栄養学会/第40回日本臨床栄養	鞍田三貴、前田恵子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
4. 一般演題(口演) 49 周術期2 座長	共	2019年02月15日	協会、第19回大連合大会 第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会	鞍田三貴、七種伸行
5. 臨床栄養 病院から在宅への課題～管理栄養士の立場から～ パネルディスカッション座長	共	2019年02月09日	第50回日本臨床栄養協会近畿地方会	
6. 教育講演7 臨床栄養における身体計測の役割～身体組成異常の把握との関連 座長	単	2018年10月07日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回連合大会	
7. 一般演題「ポスター」64経腸栄養4 座長	単	2018年02月23日	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 座長	
8. 貯筋・菌活・健やか老後	単	2018年02月03日	第16回西宮鳴教会(武庫川女子大学学校教育センター)	
9. これでよいのか栄養管理「食べる・排泄を考えよう」教育講演 他職種で取り組む排便コントロール 座長	単	2017年09月02日	第47回日本臨床栄養学協会近畿地方会	
10. 要望演題(サルコペニア1 食道癌等) 座長	共	2017年02月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	
11. 一般演題(胃瘦経腸栄養) 座長	単	2016年6月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	
12. 日本臨床栄養学会 ケースカンファレンス 座長	単	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学会 第37回日本臨床栄養協会 第14回連合大会	
13. 一般演題(胃瘦経腸栄養) 座長	単	2016年06月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	
14. 千里メディカルカンファレンス 座長	単	2016年06月14日		
15. 栄養管理のスキルアップ(在宅医療第二弾) 座長兼コーディネーター	単	2015年10月31日	第44回日本臨床栄養学協会近畿地方会	
16. 一般演題 その他 座長	共	2015年10月03日	第37回日本臨床栄養学会 第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	
17. 一般演題 腎疾患 座長	共	2014年10月04日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	
18. 一般演題(ポスター) 座長	単	2014年02月28日	第29回日本静脈経腸栄養学会	
19. 高齢者の栄養ケア 今そこにある危機にチーム医療で立ち向かう 管理栄養士の立場から	単	2013年11月3日	第55回日本病院学会	
20. シンポジウム 在宅栄養管理の現状と今後の展開 座長	共	2013年10月05日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	
21. パネルディスカッション 「実践栄養学10年の変遷と未来」 座長	共	2012年12月02日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	
22. 一般演題 臨床栄養(NST、栄養管理など) 座長	共	2012年12月02日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術集会	
23. 教育講演 腎症をふまえた糖尿病診断 脇昌子 座長	単	2012年09月01日	第39回日本臨床栄養協会近畿地方会	
24. 一般演題 半固形化 座長	単	2012年02月23日	第27回日本静脈経腸栄養学会	
25. ワークショップ アウトカム予測因子としての栄養アセスメント 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に関する入院時栄養因子		2012年02月	第27回日本静脈経腸栄養学会	
26. ランチョンセミナー 食のゼロ機能の科学と臨床～口腔機能と食品～ 野原幹司 座長	単	2011年12月10日	第9回日本機能性食品医用学会	
27. 一般演題 臨床栄養エビデンス 座長	単	2011年10月28日	第33回日本臨床栄養学会	

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
28. 嚥下の常識・非常識 特別講演 野原幹司先生 座長	単	2011年07月30日	第32回日本臨床栄養協会 第9回連合大会 第12回N N C C研修会	
29. 肝臓治療における栄養治療 現場 からの熱いメッセージを込めて		2011年01月	日本病態栄養学会	
30. 嚥下障害とリハビリテーション シンポジウム座長	共	2010年08月28日	第32回日本臨床栄養学会 第31回日本臨床栄養協会 第8回連合大会	
31. 栄養サポート加算導入後、管理栄養士の果たす役割はなにか		2010年05月	栄養アセスメント研究会	
32. レクチャー座長 第44回糖尿病学 の進歩 療養指導士に必要な技能 (4)NSTから見た糖尿病の 適正カロリー	共	2010年03月06日	第44回糖尿病学の進歩 日本糖尿病学会	
33. 一般演題 NSTまたはチーム医療 座長	共	2010年01月09日	第13回日本病態栄養学会	
34. たかが栄養、されど栄養		2009年11月	日本静脈経腸栄養学会 四国地区TNT研修会特別 講演	
35. PEGとチーム医療—現状の問題点 から— 座長	共	2009年09月20日	第31回日本臨床栄養学会 第30回日本臨床栄養協会 第7回連合大会	
36. NSTの新しい取組み		2009年09月	日本臨床栄養学会	
37. 一般演題 NST (座長)		2009年01月	第12回 日本病態栄養学会	
38. NST質の向上を求めて 老健施設 における栄養士の取組み 介護老人 保健施設エスペランサ 高橋賢子		2008年11月15日	第31回日本臨床栄養学 協会近畿地方会	
2. 学会発表				
1. 心不全入院患者のサルコペニア有 病率	共	2019年7月14日	第25回日本心臓リハビリ テーション学会学術 集会	木戸里佳、笹部麻美、岡村春菜、秋山麻衣、高木洋子、前田美歌、民田浩一、鞍田三貴 心不全入院患者179名を対象とした。サルコペニアと判定された患者は115名で、有病率は64.2%だった。心不全患者は心機能、左室駆出率に関わらず、サルコペニア患者は高率に存在していた。
2. 若年と中年女性における骨格筋量 減少(プレサルコペニア、PS)の頻 度と糖・脂質代謝の特徴;DXAと0 GTTを用いた検討	共	2019年5月23日	第62回日本糖尿病学会 年次学術集会	武内海歌、鞍田三貴、坪井彩加、湊聡美、北岡かおり、本田まり、鹿住敏、福尾恵介 女子大学生307名とその母144名でDXAと75gOGTTを施行し、乳幼児栄養と母子健康手帳で成長を調査した。SMI(skeletal)若い女性の18%、中年女性の14%に見られたPSでは糖脂質代謝は保たれていた。
3. 地域密着型急性期病院における嚥 下訓練食品提供依頼患者の栄養管 理の実態	共	2019年10月27日	第41回日本臨床栄養学 会/第40回日本臨床栄養 協会、第19回大連合大 会	長島有花、斉藤百香、新留亜実、高島伊世、橋本三穂、鞍田三貴 嚥下訓練目的の20名を対象とし、栄養管理法、入院時栄養状態を後ろ向きに検討した。嚥下訓練食品提供時の他からの栄養補給はPPN17名、経腸栄養2名、TPN1名であり、十分な栄養補給がなされていない実態が明らかとなった。
4. 心不全におけるサルコペニア発生 症例の特徴	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学 会/第40回日本臨床栄養 協会、第19回大連合大 会	笹部麻美、岡村春菜、秋山麻衣、木戸里佳、高木洋子、民田浩一、鞍田三貴 心不全入院患者179名を対象に、年齢を3分位法でわけ、さらに各群をサルコペニアの有無で群分けし、入院時栄養状態を後ろ向きに調査した。年齢に関わらず食事量をいかに増加させるかが、入院中のサルコペニア予防の鍵であった。
5. 頭頸部がんの術後合併症を予測す る術前栄養因子	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学 会/第40回日本臨床栄養 協会、第18回大連合大 会	鞍田三貴、武内海歌、吉村知夏、竹村亜希子、北村亜紀子、北野睦三 頭頸部がん患者40症例を対象とした。術後合併症発生率は35%であった。入院時SGA判定は合併症有群で71%が不良と判定され、合併症発症関連入院時因子としてSGAが抽出された。よって、SGAは頭頸部がんの栄養状態を評価し得ることが示唆された。
6. 男性下咽頭がん患者のプレサルコ ペニアの頻度と身体的特徴-男性 健常者との比較-	共	2019年10月26日	第41回日本臨床栄養学 会/第40回日本臨床栄養 協会、第19回大連合大 会	武内海歌、北村睦三、北村亜希子、鞍田三貴 下咽頭がん患者37例、健常男性13例を対象とした。下咽頭がん患者の約8割がSMI低値であり、低栄養であった。治療開始時の筋力低下は治療中断や完遂などのアウトカム指標に影響する可能性があることが示唆された。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
7. 頭頸部がん患者における治療開始時の血清亜鉛値	共	2019年02月15日	第34回日本静脈経腸栄養学会	武内海歌、北野睦三、北村亜紀子、鞍田三貴 頭頸部がん患者144例を対象に治療開始時の血清Znを測定し65 μ g/dL未満症例の割合を調べた。65未満症例は32%存在し、血清Alb、Hb、サルコペニア (AWGS)であったが、生死は無関係であった。
8. 外来初診時における下咽頭がん患者のサルコペニア有病率の把握	共	2018年10月07日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	武内海歌、北野睦三、北村亜紀子、吉村知夏、鞍田三貴 下咽頭がん患者のサルコペニア有病率は消化器がん患者よりも高率であった。S群は治療開始時に有意な体重減少が見られ、治療後の合併症発症や再発との関連をさらに検討する必要がある。
9. 喉頭癌患者の治療別の栄養状態についての検討	共	2018年10月07日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	北野睦三、武内海歌、北村亜紀子、吉村知夏、鞍田三貴、土井勝美 化学放射線治療後の体重や筋肉量は戻りにくいが、喉頭摘出後の体重や筋肉量は戻りやすい。またサルコペニア症例は放射線休止や中止、肺炎が多い傾向があったことから喉頭がんに治療においてもサルコペニアは重要な因子の可能性はある。
10. 心不全患者の入院時スクリーニング法としてのSGAの妥当性	共	2018年10月06日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	岡村春菜、笹部麻美、長島有花、木戸里佳、高木洋子、民田浩一、武内海歌、鞍田三貴 SGA判定による低栄養症例は、入院中の生命予後が不良であった。主観的評価であるSGAは心不全の生命予後予測に有用であり、入院時栄養スクリーニングとしての妥当性が確認された。
11. 高齢血液透析患者の透析導入時血清カリウム値と短期生命予後の関連	共	2018年10月06日	第40回日本臨床栄養学会/第39回日本臨床栄養協会、第16回大連合大会	伴真澄、本荘裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、鞍田三貴 65歳以上のHD導入患者において、導入時のカリウムが低い症例は低栄養状態であり、死亡率が高かった。高齢HD患者には、制限指導ではなくむしろ低栄養状態を予防する指導が重要である。
12. 大学の栄養サポートによりMC I合併独居高齢2型糖尿病患者の介護認定に至った1例(第2報)	共	2018年06月10日	第6回日本在宅栄養管理学会	鞍田三貴、武内海歌、倭英司 認知度を維持した4年半の継続はNSSの成果であるが限界もあった。介護申請から認定に至るまでの複雑な手続きは、認知症独居高齢者にはハードルが高いことが明白である。長期に培った信頼が介護認定へ導いた要因であり、新たなNSSの役割を見出せた貴重な症例である。
13. 武庫川女子大学栄養科学研究所栄養サポートステーション取組紹介	共	2018年04月29日	日本在学医学会第20回記念大会	武内海歌、鞍田三貴 本学会にて本学研究所の栄養サポートステーションの取り組みをポスター掲示にて発表した。
14. 管理栄養士養成大学による在宅栄養サポート活動報告ー軽度認知障害合併の独居高齢2型糖尿病患者の1症例ー	共	2018年02月25日	第34回兵庫県栄養改善研究発表会(会長賞受賞)	武内海歌、鞍田三貴 4年にわたりサポートし認知度が顕著に低下せず、独居高齢者を行政手続きへ導くことができたことは成果である。しかし、管理栄養士養成大学による在宅サポート活動には限界があることも明白である。
15. 頭頸部がん患者の術前栄養状態評価法の検討	共	2018年02月23日	第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会	吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、鞍田三貴 SGAは短時間評価が可能である。頭頸部がん患者においては術前のSGA評価が術後合併症発生を予測できる可能性が示唆された。
16. 重症妊娠悪阻妊婦に対する個別対応食について	共	2017年10月14日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	山下千春、西本裕紀子、麻原明美、加嶋倫子、伊藤真緒、藤本素子、古川千紗子、岩崎真利恵、山本周美、鞍田三貴、倭英司、恵谷ゆり、光田信明、位田忍 悪阻改善に至っていない対応開始直後の食事によるE%が有意に増加したことから、個別対応食によってsHGの個人の嗜好に適した食事提供ができ、食事摂取量増加の一助になったと考える。
17. 非アルコール性脂肪性肝疾患の栄養状態と食生活の特徴	共	2017年10月14日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	田村彩乃、武内海歌、福尾恵介、榎本平之、西口修平、鞍田三貴 NAFLDはメタボリックシンドロームの肝病変であると捉えられ、血清尿酸値が高値であり、インスリン抵抗性、低亜鉛であった。亜鉛には抗酸化作用があり、肝線維化予防に重要な役割をもつため、血清亜鉛濃度低値に至る食事をさらに分析するとともに、亜鉛補充を中心とした食事療法の確立を目指したい。
18. 心不全患者の入院時スクリーニング法としてのSGAとODAの乖離症例について	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	岡村春菜、笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、鞍田三貴 SGAとODAの乖離症例はわずかであった。乖離を認めた症例を在院日数で検討すると、SGAが栄養評価に有用であることが示唆された。
19. 朝食60分後血糖が空腹時血糖より低い若い女性のインスリン分泌とアポ蛋白A1は高く、NEFAは低い	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会	武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、鹿住敏、福尾恵介 若い正常体重の日本人女性の食後血糖動態には、早期インスリン分泌が深く関与し、インスリン抵抗性

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
20. 地域在住高齢女性で身体的フレイルの重要な要素である筋力低下はアディポネクチン (ADP) 高値と関連する	共	2017年10月13日	第39回日本臨床栄養学会総会 第38回日本臨床栄養協会総会 第15回大連合大会(シンポジウムS3-3)	(NEFA低値) の関与も示唆された。 鞍田三貴、武内海歌、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、鹿住敏、福尾恵介 ADP高値の地域在住高齢女性ではメタボ関連指標は良好であったがADP高値は握力低下のリスクであった。骨格筋量減少の超低頻度の原因として、筋力減少の先行あるいは不適切な基準値設定が想定される。
21. 薬剤・食物アレルギーを有する下咽頭喉頭頸部食道全摘出術 (TPLE) 後患者において成分栄養剤の半固形成を試みた1症例	共	2017年07月07日	第54回日本外科代謝栄養学会	吉村知夏、北野睦三、竹村亜希子、北村亜紀子、武内海歌、鞍田三貴 (代理発表: 武内海歌) アレルギー除去粉ミルク、REF-P1 (R) を添加することで成分栄養剤の半固形成が可能であり、下痢や逆流、長時間投与による精神的負担の軽減、アバンド併用により栄養状態維持に有用であった。
22. 循環器・血管専門急性期病院の管理栄養士による訪問栄養食事指導の現状と課題	共	2017年07月02日	第5回日本在宅栄養管理学会	木戸里佳、長島有花、笹部麻美、岡村春菜、鞍田三貴 管理栄養士からケアマネージャーに訪問栄養食事指導の必要性を依頼し、管理栄養士の在宅医療における役割を確立することが課題である。
23. メタボリックシンドローム (MS) の構成因子数が増加すると糖尿模湯におけるCKD(糖尿病腎臓病、DKD)は悪化する	共	2017年05月27日	兵庫生活習慣病懇話会2017	竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
24. メタボリック症候群 (MS) 合併2型糖尿病の朝食後血糖 (PPG) , TG (PTG) とnon-HDL-C (NHDLC) は高い	共	2017年05月20日	第60回日本糖尿病学会	湊聡美、竹之内明子、坪井彩加、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 PPG, PTG, NHDLCとMSとの関連を検討した結果、MS合併2型糖尿病では1年間のPPG, PTG, NHDLCが高い。
25. 2型糖尿病においてHbA1c と収縮期血圧 (SBP) の年間の変動はメタボリックシンドローム (MS) 構成因子数と関連する	共	2017年05月20日	第60回日本糖尿病学会	北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、湊聡美、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 SBPとHbA1cの長期変動とMSの関連を検討した結果、2型糖尿病におけるMSと心血管疾患の関連の一部をHbA1cとSBPの変動が担っている可能性が示唆された。
26. 高齢女性でアディポネクチン (ADP) 高値は、炎症、インスリン抵抗性とは独立して、握力低下 (<18kg) と関連した	共	2017年05月19日	第60回日本糖尿病学会	武内海歌、坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、鹿住敏、福尾恵介 高齢女性でADPと糖・脂質代謝、握力との関連を検討した結果、ADP高値の高齢女性の代謝状態は良好であったが低握力であった。
27. 75gOGTT 負荷後血糖 \leq 70 mg/dLの若い女性ではアディポネクチン (ADP) が高オロソムコイド (ORM) が低い	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	坪井彩加、竹之内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、芳野原、鹿住敏、福尾恵介 75gOGTT負荷後血糖 \leq 70 mg/dLの特徴を検討した結果、OGTT負荷後血糖 \leq 70 mg/dLではADPが高く、ORMが低かった。
28. メタボリックシンドローム (MS) の構成因子数が増加すると糖尿病におけるCKD (糖尿病腎臓病、DKD) は悪化する	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、湊聡美、北岡かおり、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 DKDの悪化とMSの関連を前向きに検討した結果、2型糖尿病においてMSの構成因子数の増加に伴ってDKDの6年間の悪化率も増加した。
29. 若い女性でオロソムコイド (ORM, 別名 α 1 酸性糖蛋白) は75gOGTT の30分後血糖と血糖曲線下面積に強く関連する	共	2017年05月18日	第60回日本糖尿病学会	鹿住敏、坪井彩加、竹ノ内明子、湊聡美、北岡かおり、武内海歌、鞍田三貴、芳野原、福尾恵介 20歳の女性168人において体組成はDXAで測定し、OGTTを施行した結果、ORMは30分後血糖、血糖曲線下面積と強く関連した。
30. 若年女性のやせ警告媒体視聴後の意識変化について	共	2017年02月26日	第33回兵庫県栄養改善研究発表会	武内海歌、鞍田三貴 やせ警告媒体DVD視聴後も「やせたい」と回答した者は約6割存在し、標準的な体格である者ほど、食行動の異常性 (代理摂食、満腹感覚、体質に関する認識) がみられた。現代の若年女性は、やせ警告だけでは体格に対する意識の変化は困難であり、他のアプローチが必要である。
31. 心不全患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2017年02月25日	第2回日本心臓リハビリテーション学会 近畿地方会	岡村春菜、笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、武内海歌、鞍田三貴 SGAは客観的指標を用いず主観による評価であるが、低血清Alb患者を見出せる上、全ての患者を評価できる。
32. リハビリテーション患者における高齢者栄養リスク指標 (GNRI) と筋肉量および歩行自立度の検討	共	2017年02月24日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、川村祐、箱田真知子、久米真由、吉尾雅春、橋本康子、鞍田三貴、合田 文則 GNRIとFMIに高い相関を認め、歩行自立患者で有意にGNRIは高かった。GNRIは回復期リハの高齢者において有用な栄養指標と考えられた。
33. 栄養学的因子がリハビリテーション効果に与える影響—MNA-SFとFIMの関連から—	共	2017年02月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会(ポスター発表)	田和侑奈、桜井史明、脇田あやの、川村祐、箱田真知子、久米真由、吉尾雅春、橋本康子、鞍田三貴、合田 文則 回復期リハ病院では入院時から低栄養、低体重が多く、入院中に体重改善に至らない症例も多かった。MNA-SFの関連では入院時の栄養状態とFIM関連性は低く、退院時の栄養状態が良好であればFIMが向上した

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
34. 高齢血液透析患者の短期生命予後を決定するGNRIカットオフ値の検討	共	2017年02月23日	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会(ポスター発表)	回復期リハビリ病院においては、リハによるエネルギー消費量も加味した栄養介入を行うことにより、患者の機能的自立向上に寄与することが示唆された。
35. 管理栄養士による在宅訪問が血糖管理に有効であった軽度認知障害合併2型糖尿病の一例	共	2016年11月12日	第53回日本糖尿病学会近畿地方会/第52回日本糖尿病協会近畿地方会	尾上明徳、武内海歌、鞍田三貴、倭英司、鈴木淳一、鹿住敏、福尾恵介(代理発表:武内海歌) 軽度認知障害合併・2型糖尿病の血糖管理に、かかりつけ医と連携した管理栄養士による在宅訪問が有効である可能性が示唆された。
36. 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 患者の発がん予防に向けた栄養管理	共	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	鞍田三貴、田村彩乃、武内海歌、福尾恵介、榎本平之、西口修平 2016年1月から現在までに兵庫医科大学病院外来通院患者で同意を得て調査を実施し23(男11/女12)症例についての食生活の特徴を報告する。
37. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、尾上明徳、武内海歌、鞍田三貴 負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより入院中の褥瘡発生率および在院日数、転帰に影響を及ぼす可能性が示唆される。
38. 運動訓練はアディポネクチンとは独立して若い女性の脂肪組織のインスリン感受性を亢進させる	共	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	岡村春菜、武内海歌、鞍田三貴、鹿住敏、福尾恵介 脂肪量と脂肪分布、脂肪組織のインスリン抵抗性、血清アディポカインを若い女性アスリート(A、運動クラブの学生)と非アスリート(NA、栄養学科学学生)と比較した。腹部脂肪蓄積の少ない若い女性アスリートにおいて、アディポネクチンとは独立した脂肪組織のインスリン感受性の亢進が見られた。
39. 高齢透析患者の導入時の栄養状態と生命予後の関連性	共	2016年10月09日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	尾上明徳、本庄裕美、谷木優子、岩崎寮子、馬見塚武子、重松武史、西庵良彦、宮本孝、武内海歌、鞍田三貴 導入時のGNRIが生命予後に影響を与える因子であったことより、栄養状態が透析患者の短期間の生命予後に影響することが明らかとなった。
40. 在宅訪問で血糖コントロールの改善と認知機能の進行抑制が可能であった独居高齢2型糖尿病患者の1症例	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	武内海歌、鈴木淳一、鞍田三貴、倭英司、鹿住敏 管理栄養士を雇用する開業医は少なく、本学栄養科学研究所において栄養支援を実施しているが、独居高齢患者が多く、在宅へ訪問することが必然となった。NSSによる継続的な栄養支援は、長期的な血糖コントロールと認知症の進行抑制が可能である。
41. 回復期リハビリテーション病院における短期ADLの改善と栄養摂取量との関係	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	川村祐、脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、箱田真知子、久米真由、合田文則、橋本康子、武内海歌、鞍田三貴 入院時AlbやFIMの値に関わらず、ADLの改善には積極的な栄養介入が必要であり、短期ADLの改善に、たんぱく質が関与することが明らかとなった。
42. ICU入院の心臓血管疾患患者に対する栄養スクリーニング法の検討	共	2016年10月08日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	笹部麻美、長島有花、木戸里佳、民田浩一、岡村春菜、武内海歌、鞍田三貴 心臓血管疾患患者のICU在室日数に関連する入院時栄養スクリーニング法を検討する。SGAによる栄養評価はICU在室日数と関連していた。心臓血管疾患患者のICU入院時のスクリーニング法になり得る。
43. レポーティングシステムによる栄養摂取量評価法を用いたリハビリテーション患者の栄養指導	共	2016年10月07日	第38回日本臨床栄養学会第37回日本臨床栄養協会第14回連合大会	久米真由、箱田真知子、川村祐、脇田あやの、田和侑奈、桜井史明、池田吉成、吉尾雅春、合田文則、橋本康子、鞍田三貴
44. 在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者1症例～開業医と大学の連携～	共	2016年06月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	鞍田三貴 武内海歌 倭英司 鹿住敏 2011年より栄養サポートステーション(NSS)を開設し栄養支援を開始した。在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者1症を提示し例主治医とNSSの連携による栄養支援は、長期的な血糖コントロールと認知症進行予防が可能である
45. 若い女性の約半数で朝食後に無自覚低血糖(70mg/dl以下)	共	2016年05月14日	第21回兵庫生活習慣病懇話会	坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
46. アバンドTM投与により褥瘡改善を認めた広範難治高齢褥瘡患者一症例報告	共	2016年02月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	山本亜衣子、加地真梨、精松千尋、南有紀子、鞍田三貴 広範な難治高齢褥瘡患者に対し、入院時より同カロリー投与下において、アバンドTMを1か月投与したが、Cr、BUNは低下し褥瘡の改善を認めた。高齢難治褥瘡患者に対してアバンドTMの投与は有効である。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
47. 栄養量および食形態低下患者への 早期栄養介入効果	共	2016年02月2 6日	第31回日本静脈経腸栄 養学会	加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、小野正代、尾上 明穂、武内海歌、鞍田三貴 入院中の食事に対して必要量を満たせない食事箋が 出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果に ついて検討した。負の食事箋を発行された時点で管 理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより、在院 日数及び転帰に影響を及ぼす可能性が示唆された。
48. オリジナル栄養摂取量調査法 (QC NQ)の妥当性の検討 24時間蓄尿と FFQとの比較	共	2016年02月2 5日	第31回日本静脈経腸栄 養学会	武内海歌、木戸里佳、鞍田三貴 限られた栄養指導中に食事摂取量を瞬時に把握でき るオリジナル栄養摂取量評価表 (QCNQ)を開発、その 妥当性を検討した。QCNQによるたんぱく質と食塩摂 取量の評価は、24時間蓄尿から求めた客観的数値に 近似値であり予測精度も高かった。栄養指導中に摂 取量を評価するツールとして活用できる可能性が示 唆された。
49. 若年女性において食後TG代謝動態 は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2016年01月1 0日	第19回日本病態栄養学 会	武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 平均年齢22歳の女子大学生35名を対象に、テストミ ールA摂取後の食後TG代謝動態 (TG-AUC) が体脂肪量 、血清アディポカインに関連するかを検討した。腹 部肥満の指標である体幹下肢脂肪比がTG-AUCと強く 相関した。経年による腹囲増加は最小限に努める必 要がある。
50. 若年女性において食後TG代謝動態 は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2015年10月3 1日	第20回兵庫生活習慣病 懇話会	武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 体脂肪量と血清アディポカインが食後TG代謝動態に 関連するかを検討した。女子大学生35名にテストミ ールAを15分以内に摂取し食前、食後30、60、120分 後にTGを測定し、その曲線下面積 (AUC) を食後TG代 謝動態の指標とした。TGは食前55から79 mg/dlと漸 増した。TG-AUCは体脂肪量等とは相関しなかったが 体幹/下肢脂肪比 (r=0.54, p<0.001)、アポB (r=0. 65, p<0.001) 等と相関した。重回帰分析では体幹/ 下肢脂肪比、アポBがTG-AUCの予知因子であった (R2 =0.73)。腹囲が74cmの若年女性においても、腹部肥 満の指標である体幹/下肢脂肪比が食後TG代謝動態と 強く相関した。経年による腹囲の増加は最小限に止 める努力が必要である。
51. 栄養量および食形態低下の食事指 示を受けた患者への管理栄養士介 入効果の検討	共	2015年10月3 日	第37回日本臨床栄養学 会/第36回日本臨床栄養 協会 第13回連合大会	加地真梨 山本亜衣子 南有紀子 武内海歌 鞍田 三貴 入院中に栄養量が明らかに減少する食事箋が出され た時点で管理栄養士が介入した場合の効果を検討。 介入群、従来群はランダム割り付け群分けした。負 の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養 管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点 で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより 栄養改善に寄与する可能性が考えられた。
52. オリジナル栄養摂取量調査法 (QC NQ)の妥当性の検討	共	2015年10月3 日	第37回日本臨床栄養学 会/第36回日本臨床栄養 協会 第13回連合大会	木戸里佳 武内海歌 鞍田三貴 オリジナル栄養摂取量調査法 (Questionnaire Calcu lating Nutrition Intake Quickly:QCNQ)を開発と その妥当性を検討。24時間蓄尿を確実に実施できた1 3名、28歳 (21-68歳)である。管理栄養士の問診に よるQCNQとFFQを用いた栄養摂取量評価を行った。 蓄尿より推定たんぱく質摂取量、推定食塩摂取量を 算出し、QCNQとFFQから算出したたんぱく質、食塩 量と比較。 QCNQと24時間蓄尿との相関係数はたんぱく質量r=0. 61 (p<0.05)、食塩量r=0.70 (p<0.01)、ともに 有意な正相関を認めた。FFQとの相関は示されなかつ た。QCNQでのたんぱく質、食塩摂取量は蓄尿より 求めた客観的数値に近く、栄養指導中に摂取量を評 価するツールとして活用できる可能性が示唆された。
53. 若年女性の食後代謝動態に対する 運動の影響：テストミールAによ る食事負荷試験を用いて	共	2015年10月0 4日	第37回日本臨床栄養学 会/第36回日本臨床栄養 協会 第13回連合大会	武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 食後代謝動態に対する運動の影響を若年女性におい て検討した。女子大生35名 (運動群17名と非運動群1 8名) が12時間絶食後に、朝食としてテストミール A「糖質58g、脂質17g (エネルギー比33%)、蛋白質 17g、450kcal」を15分以内に摂取した。運動選手の インスリン感受性は非常に良好であったが、テスト ミールAに対する血糖とTGの反応は健康な若年女性で は比較的小さく、日ごろの激しい運動の影響も限局 的であった。
54. 2型糖尿病におけるアテローム硬 化、濾過機能低下とアルブミン尿 の関連	共	2015年05月2 2日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	武内海歌、竹之内明子、坪井彩加、鞍田三貴、福尾 恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名で、頸動脈IMTと6.3年間 (中央 値) のeGFRの変化をACR値別に検討した。eGFRの変化 は線回帰分析で算出した。ACR \geq 30 mg/gと比較して1 0 mg/g未満の最大IMTは小さく (0.98 vs. 1.13 mm) 、年次eGFR変化 (0.08 vs. -1.72 ml/min/1.73m2)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
55. 2型糖尿病では空腹時血糖 (FPG) の変動と食後TG (PTG) が腎症悪化の予知因子である	共	2015年05月2日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	は高かった。さらに、5mg/g未満の最大IMTも小さく (0.95 mm)、年次eGFR変化 (-0.03 ml/min/1.73m ²) も高かった (すべてp<0.05)。できる限り低いACRの達成が濾過機能低下とアテローム硬化の進展予防に有用である可能性が示唆された。 北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者161名で、6.3年間 (中央値) における腎症悪化 {腎症病期の進展あるいは尿アルブミン/クレアチニン比 (ACR) の倍増以上、20名} の予知因子を多重ロジスティック回帰分析で検討した。年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、収縮期血圧、HbA1c、食後血糖、空腹時TGの平均と標準偏差 (SD)、FPG、LDLとHDLコレステロール、SD-PTG、log ACRとは独立して、PTG値 (オッズ比: 1.013, p=0.001) とSD-FPG (オッズ比: 1.036, p=0.04) が腎症悪化の予知因子であった。PTGの低下とFPGの変動の抑制が腎症悪化防止に有用である可能性が示された。
56. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数 (CV) は推算糸球体濾過量 (eGFR) の推移と関連した	共	2015年05月2日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名の12か月間のHbA1cの平均値、CVと6.3年間 (中央値) のeGFRの推移を重回帰分析で検討した。登録時のeGFR、年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、12か月間の収縮期血圧、空腹時と食後の血糖とTG、LDL-C、HDL-Cの平均値とそのCV、12か月間の平均のHbA1cとは独立して、log (尿アルブミン/クレアチニン比) (標準化β、-0.193) とCV HbA1c (標準化β、-0.186) がeGFRの低下と相関した。アルブミン尿の改善とHbA1cの変動の抑制が濾過機能低下の防止に有用である可能性が示唆された。
57. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数 (CV) は推算糸球体濾過量 (eGFR) の低下と直接相関した	共	2015年04月18日	第19回兵庫生活習慣病懇話会	竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 外来2型糖尿病患者168名のHbA1cのCV (年間変動) とACR (Alb/Cre比) がeGFRの低下に相関した。
58. 結核排菌遅延に關する栄養学的危険因子の抽出とその有用性の検討	共	2015年02月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	中辻晴香、初田和由、武内海歌、茨木まどか、佐々木由美子、香川智子、坂口充弘、鞍田三貴、林清二 入院時検査値から排菌遅延因子に関わる危険因子を抽出し、その有用性を検証する。男性は女性より有意に排菌が遅延した。栄養状態と排菌遅延の関連が示唆され、男性では低BMI、GIが、女性では低BMI、WBC増多が排菌遅延を予測できる危険因子であることが判明した。
59. 高齢透析患者の栄養状態	共	2015年02月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	織原茉祐花 武内海歌 宮本孝* 鞍田三貴 高齢透析患者の栄養状態および身体計測を行い、問題点を明らかにする。栄養指導依頼患者の50%が70歳以上であった。摂取量不足群は年齢に関わらず低栄養であった。食事を意識的に制限している症例が高頻度であった。
60. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	共	2014年11月15日	第18回兵庫生活習慣病懇話会	亀井こずえ、前山遥、笹野馨代、田中明紀子、川村雅夫、古川安志、古田浩人、赤水尚史、西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病初回教育入院患者を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害は53%にみられ睡眠障害有群は夕食後血糖が高値であった。睡眠障害は食行動の「満腹感覚」と関連性を認めた。
61. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食生活および栄養摂取量の関連	共	2014年10月5日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病患者を睡眠障害の有無により2群に分け、入院時栄養指標、Inbody720測定による体組成、食事摂取量、食行動を比較した。睡眠障害有群は無群に比べ、糖尿病罹患歴が有意に長く、食行動調査では、満腹感覚、食べ方、食事内容に差が見られた。
62. 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態の特徴	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	木戸里佳 長尾浩史 宇野久一 鞍田三貴 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態を、BMI18.5未満を低体重群、18.5~25未満を正常群、25以上を肥満群の3群に分類し調査した。低体重群32%、正常群68%、肥満群31%でありAlb値は3群に差はなかった。低体重群 (32%) と肥満群 (31%) が二極化して存在しており、低体重群は、マラスムス型栄養状態あることが判明した。
63. 高齢透析患者の栄養状態と問題点	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	武内海歌 亀井こずえ 織原茉祐花 本荘裕美 松本みゆき 岩崎亮子 西庵良彦 宮本孝 鞍田三貴 透析専門クリニックの栄養指導依頼患者87例を対象に年齢の中央値 (70歳) で2群に分類し高齢透析患者の栄養状態および問題点を明らかにした。50%が70歳以上であった。0歳以上で意識的食事を制限してい

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
64. 大学における地域栄養サポートステーション (NSS) の糖尿病栄養食事指導効果	共	2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会 近畿地方会	る症例は85%に見られた。 織原茉祐花 亀井こずえ 鞍田三貴 倭英司 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導による長期的血糖コントロールが可能である
65. 若年成人女性における食生活パターンと体脂肪の関係	共	2014年10月25日	第35回日本肥満学会	鞍田三貴 谷川千尋 谷崎典子 武内海歌 福尾恵介 高田健治 若年成人女性の食生活パターンを客観的に分類し、各パターンに対応する個体群の体脂肪を明らかにした。 若年成人女性90名の体脂肪を測定し、食事調査と食行動質問票調査59変数について主成分分析、得点を特徴変量とするベクトルを各個体から抽出した。特徴変量として9主成分が抽出された。食生活の内容が体脂肪率に影響を及ぼすことが明らかとなった。
66. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連		2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会 近畿地方会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志2 古田浩人 赤水尚史 西理宏 鞍田三貴 初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害有群は50%であり、睡眠障害無群と比較し、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害有群は、「空腹感・食動機」、「満腹感覚」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していた。
67. 2型糖尿病患者における睡眠リズムと食生活および栄養摂取量との関連	共	2014年09月4日	第71回和歌山内分泌代謝研究会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 睡眠障害と食行動の関連について初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠調査は、Pittsburgh睡眠質問票 (PSQI)、活動調査は、日本語版朝型-夜型質問紙 (MEQ) を用いPSQIスコア5.5をカットオフに睡眠障害有無の2群に分け、体組成、食行動を比較した。 睡眠障害有群は50%であり、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害有群は、食動機、「満腹感覚」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。
68. 上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性と、高齢ではlow-grade inflammationと相関する	共	2013年5月16日	第56回日本糖尿病学会	山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、鹿住 敏、福尾恵介 上腕脈圧と2型糖尿病の危険因子との関連を女性で検討した。女性611名で、BMI、腹囲、体組成、血糖、インスリン、脂質、炎症指標、アディポカインを測定し、一部ではOGTTも施行した。脈重回帰分析では脈圧の独立した規定因子は若年ではHOMA-IRとアディポネクチン、中年ではHOMA-IR、高齢ではhsCRPとTNF-αであった。【結論】上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性、高齢ではlow-grade inflammationと相関した。
69. 結核発病、治療反応性と耐糖能異常、栄養の関連性の検討		2013年3月28日	第88回日本結核病学会	林 清二 武内海歌 佐々木由美子 香川智子 鞍田三貴 効果的な栄養介入のために、結核発病、排菌陰転化遅延に関連する危険因子を抽出した。結核患者522名と同期間のドック受診者から年齢をマッチさせた対象を1:1で抽出し臨床指標を比較した。男性はIGT、低栄養と結核発病と排菌遅延の間に関連を認めた。
70. 肺結核発症と排菌陰転遅延に関連する栄養指標の抽出	共	2013年2月21日	第28回日本静脈経腸栄養学会	初田和由 武内海歌 茨城まどか 大石幸男 金田和奈 濱出清美 宮崎美佳 佐々木由美子 香川智子 川口知哉 中山環 鞍田三貴 林 清二
71. 消化器癌患者における術前サルコペニア有病率と術前食事摂取状況の検討		2013年10月6日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	内田絢子、鞍田三貴、鳥山明子、中山環、風間敬一、山本和義、辻仲利政 消化器癌患者における術前のサルコペニア有病率を明らかにし、栄養状態や術前食事摂取状況との関係を検討。消化器癌患者のサルコペニア発生率は24.5% (26/116例)であった。体重1kg当たりのたんぱく質摂取量はサルコペニア群で低い傾向が見られ術前からのたんぱく質摂取量の確保は、サルコペニアの予防に効果的である可能性が示唆された。
72. 地域医療栄養治療システム栄養サポートステーション (NSS) における糖尿病栄養食事	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	鞍田三貴 織原茉祐花 亀井こずえ 内田絢子 山田恵理子 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 2011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
73. 高齢女性において糸球体濾過量、血清鉄、血清アルブミンが握力の独立した規定因子である	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	による長期的血糖コントロールが可能である 山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、谷野永和、鹿住 敏、福尾恵介 高齢者において握力の低下は身体機能の低下や寝たきりのみならず認知能力の低下とも相関する。今回高齢女性 (n=202、年齢76歳) において、心血管疾患のリスクと握力との関連を調査した。年齢とは独立して、アルブミン、鉄とeGFRが握力の規定因子であった (累積R ² =0.355)。この関係は年齢、炎症や貧血とは独立して見られた。
74. 血液透析導入1年未満の透析患者における食事制限意識と栄養指標の関係		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	鞍田三貴 内田絢子 山田恵理子 福尾恵介 松本みゆき 本荘裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝 透析患者の食事に対する意識と栄養指標との関係を検討する。 透析導入1年未満の患者27名 (男18/女9、年齢中央値69才) を対象とし食事制限群、非制限群の透析前の栄養指標、透析前後の体重増加率、食事摂取状況を比較した。 制限群の食事摂取量は目標値より不足しており、GNRIやDW/標準体重は低値を示した。また透析間体重増加率も制限群は高値であった。以上より、意識的食事制限は低栄養のリスクと考えられる
75. 経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 施行患者の1年生存に関する術前栄養因子		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	鞍田三貴 西真理絵、武内海歌 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年生存に影響する因子を抽出する。 経皮内視鏡胃瘻造設術 (PEG) を施行し、予後調査74例の性別、術前気切の有無、術前栄養補給法を2群分類、年齢、PEG施行前の臨床諸指標は中央値で2群分類し、Kaplan-Meier法で生存解析を行い、logrank-testを使用した。予後予測因子の抽出として、COX比例ハザードモデルを使用した。 術前Alb値、気切の有無が予測因子として有意に関わっていた。
76. 神経筋疾患専門病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 施行患者の生存に関する術前栄養因子		2013年01月12日	第16回日本病態栄養学会	西真理絵、武内海歌 鞍田三貴 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 1年生存群、死亡群におけるPEG施行前の栄養指標を比較し、3カ月、6カ月、1年の生存率を検討する。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年予後に関連している術前因子は、血清Alb値、Hb、栄養補給法、気切の有無であった。
3. 総説				
1. 重症妊娠悪阻妊婦 (sHG) の食嗜好	共	2018年12月	New Diet Therapy Vol. 34 No3:3-12	sHG妊婦の食事を標準化することを目的に、最も食事が摂取できない状況時にsHG妊婦が選ぶ食事内容を検討した。 久我菜月、西本裕紀子、山下千春、武内海歌、麻原明美、加嶋倫子、伊藤真緒、位田忍、鞍田三貴
2. 再手術を必要とした高齢イレウス患者	単	2018年12月	New Diet Therapy Vol. 34 No3:71-76	
3. 排便コントロールから考える栄養管理～多くの食物・薬物アレルギーを有する頭頸部がん患者の術後栄養管理～	共	2018年06月01日	New Diet Therapy Vol. 34 No1:83-86	食物・薬物アレルギーを認めるTIPLE (下咽頭頭部食道全摘術) 後の患者に成分栄養剤をアレルゲン除去粉ミルク、粘度調整食品を用いて半固形成することで下痢・逆流の改善、投与時間の短縮、栄養状態の維持が見られた1症例を報告する。 吉村知夏、北野睦三、南文香、梶原克美、鞍田三貴
4. 私の栄養管理術～実践編～	単	2016年6月1日	New Diet Therapy	不安定狭心症、慢性腎不全の透析患者を提示し栄養管理の実例を紹介
5. 在宅医療～とりあえず一歩踏み出してみました～	単	2015年	New Diet Therapy 31(3)105-110	地域の糖尿病患者は高齢者が多い。施設に留まっている栄養食事指導をとりあえず一歩在宅指導へと足を向けてみると、管理栄養士でなければできない支援が見えてきた。地域での在宅医療、介護連携推進体制の構築に管理栄養士は貢献できる。
6. 開業医との連携と継続した栄養指導	単	2013年02月	Nutrition Care No1.6. No2:p16-22	栄養科学館栄養科学研究所で活動を開始した栄養サポートステーションの1年間の結果の考察
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 兵庫の医療 シリーズ3 2型糖尿病と闘う ③高齢者の血糖管理	共	2016年09月17日	神戸新聞	
2. 評者 糖尿病に強くなる! 療養指導のエキスパートを目指して		2015年09月28日	週刊医学会新聞 医学書院	
3. 将来に向けて、食・栄養をどう捉		2014年1月	New Diet Therapy 日本	橋詰直孝 小沼富男 多田紀夫 鞍田三貴

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
え、日本臨床栄養協会はどう動くか【新春座談会】 4. 兵庫の医療 武庫川女子大学の取り組み 主治医と連携、栄養指導		2012年09月08日	臨床栄養協会30 (1) : pp3-14 (2014) 神戸新聞朝刊	日本臨床栄養協会の将来像に繋げるための新春座談会
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年4月1日～現在	日本静脈経腸栄養学会 栄養・管理栄養士部会委員 (委嘱)
2. 2001年～現在、2005年～編集委員、2011年～2016年評議員 2016~代議員	日本静脈経腸栄養学会
3. 2001年～現在、2003年～評議員	日本病態栄養学会
4. 1998年～現在	日本栄養改善学会
5. 1993年4月～現在	日本糖尿病学会
6. 1991年～現在、1999年～評議員	日本臨床栄養学会
7. 1991年～現在	日本動脈硬化学会
8. 1991年～現在、2000年～評議員	日本臨床栄養協会
9. 1983年4月～現在	日本肥満学会